

口の中は細菌だらけ!?

疾患治療を乗り越えるための口腔ケア



口の菌数測定と感染源治療



医科カンファレンスへの参加



病棟への往診

疾患治療を 乗り越えるための 口腔ケア



連携口腔ケアサポートチーム 副代表
口腔総合診療科 西 裕美

私たち歯科医療従事者は、「皆様の口」を支える仕事をしています。口は治療内容や体の状態によって様々な不快症状が現れます。不快な症状を起こす原因は、義歯が合わない、虫歯が痛いという問題とは別に、口の細菌が深く関係しています。口の細菌で大切な治療の足を引っ張らないように菌数をコントロールし、医科の治療に合わせて適切な歯科治療を組み合わせながら、皆様の治療生活をサポートさせていただきます。

3つのポイントをおさえて適切な口の管理を

ポイント① 口の中は体の中で最も細菌が多い場所です

口の中は、体の中で最も不衛生な場所であることをご存知でしょうか。歯垢にはなんと、便と同じ量の細菌が潜んでいます。にもかかわらず、一度歯についた細菌は数日でバイオフィルムを形成して内部に細菌を取り込んでしまうため、うがいや抗菌剤での殺菌が難しくなります。歯みがきのコツを押さえてバイオフィルムを機械的に除去し、さらに定期的な歯石除去を行いましょう。

- コツ①** 力を入れずに、毛先で磨く感じで優しく磨く
- コツ②** 小刻みに動かし、歯1本ごとを磨く
- コツ③** 磨き残しやすい所
(歯間部・歯茎境目・咬み合わせる面)を忘れずに磨く



バイオフィルム内側に菌を取り込んで抗菌剤が効かない
(SUNSTARホームページより引用)

ポイント② 治療中に起こる院内肺炎の原因菌の8割は、口の中に存在します

院内肺炎の原因菌は口の常在菌、特に嫌気性菌が考えられており、その多くは歯周病菌であると言われています。中高年の病気と思われる歯周病ですが、実は20歳以上の8割の人の口に歯周病菌は存在しており、**院内肺炎の原因菌の81%は口の中に存在する**とされています。また、歯周病が進むと歯肉から容易に出血し、歯肉が細菌の血管内への侵入入口となることがあります。血液中に侵入した口の細菌は、様々な因子を産生して糖尿病や関節リウマチ、肝疾患など多くの疾患に関与することが報告されています。また治療中は抵抗力が落ちているため、重篤な敗血症(細菌感染が全身に波及したもの)へと繋がるきっかけとなる、口はそんな危険な場所なのです。



連携口腔ケアサポートチーム

ポイント③ 口のケアと合わせて、感染の元となる歯の治療もはじめましょう

口の中におこる代表的な疾患として虫歯や歯周病が知られていますが、これらも細菌感染症の一つです。歯科治療をせずに感染の元が残ったままでは、歯ブラシを行っていたとしても菌数を減少させることはできません。**抵抗力が下がる前に、まずは感染の元となる歯の治療が必要です。**

広島大学病院における 医歯連携による口腔管理の現状

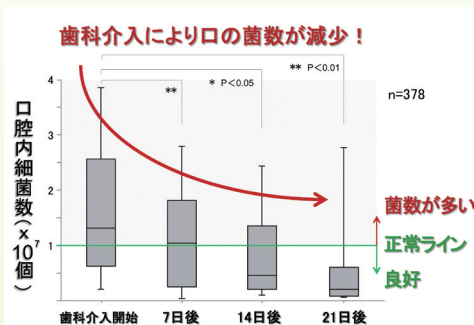
当院では、2012年12月に連携口腔ケアサポートチームを結成し、口の管理を通して疾患治療中の感染を予防する取り組みが始まり、全身疾患治療の内容に応じた口の管理を行っています。

本チームが口の管理を行うときには、一般的な口の診査（う蝕や歯周病、口内炎の状態など）に加えて、口の菌数を測定、**口が全身的な感染の元となりやすいかを数値化、感染のリスクを明らかにしています。**これによって、患者さんご自身だけでなく、歯科以外の医療職も口の状態を把握することが可能となり、さらに医科とのカンファレンスで詳細な情報を共有しています。また、講習会を通じて歯科スタッフも全身疾患の治療について学ぶとともに、歯科以外の職種にも口の管理を支援していただけるよう、口腔ケアの研修会を開催しています。

免疫力低下が起こりやすい治療を行っている時には、感染に結びつかないように医師と連携して適切な時期に適切な治療を行い、厳重な管理を行います。その後、治療が一段落した際にはかかりつけ歯科で継続していただくなど、患者さんの状態やご希望に応じた管理を行っています。まずは、担当の医師や看護師に口の管理を希望することを伝えていただき、**少しでも早い時期から口の感染源を数値化して、効率的な管理を行うことをお勧めいたします。**



口の菌数測定と感染源治療



医師による歯科スタッフ対象:疾患講習会



多職種対象:口腔ケア研修会



医科カンファレンスへの参加

在宅で歯科医院への通院が困難な方は 訪問診療を

歯科外来に受診できない時には、病棟に往診して口腔管理を行っています。また退院後口腔管理を継続する方には、当院との訪問診療連携歯科をご紹介させていただいております。また、下記にて訪問診療の申込み・問い合わせなど行っております。ご参照ください。

【申 込 先】広島市歯科医療福祉対策協議会 ☎082-262-2662

【問い合わせ】広島市健康福祉局保健部保健医療課 保健予防・指導係 ☎082-504-2290

ニュースアップ

無人航空機(ドローン)を活用 血液検体などの搬送技術を開発へ

広島大学医学部(救急集中治療医学)の貞森拓磨客員准教授と(株)NTTドコモ、モバイルクリエイイト(株)、インフォコム(株)、ciDrone(株)が提案した事業が、総務省の戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE)の地域ICT振興型研究開発枠に採択され、2017年5月24日(木)記者説明会を開催しました。

提案事業内容は、緊急時に必要となる血液検体などを無人航空機(ドローン)を活用して、搬送するための研究や技術開発を行うものです。血液検査は、診療に際して必要不可欠な検査です。緊急性の高い疾患では、検査結果判定の遅れが診断の遅れに繋がり、治療介入の遅れ、ひいては死亡率を上昇させている懸念があります。特に、広島県は島嶼部や山間地域が多く、無医地区数が全国2位と医療過疎が課題となっています。

実証検証フィールドである大崎上島町は、瀬戸内海のほぼ中央に位置する県内唯一の離島です。総人口7800人余りに対し、医院は5つ。医療資源が十分ではなく、様々な課題が山積しています。

事業計画では今年度は、医療過疎地域の医療機関における緊急時の検体検査の実態を調査し、既存の技術を組み合わせた携帯電話回線を利用した無人航空機の自動飛行、狭帯域での映像伝送などを行います。また、無人航空機によって運搬された検体の状態の変化なども検証します。来年度以降は、今年度で得られた検証結果を元に、より長距離の搬送を安全に行うために無人航空機の改良を行います。



記者説明会

ロボット治療機器を中国地方で初めて導入



記者説明会

広島大学病院では2017年4月から、中国地方で初めてロボット治療機器「HAL® 医療用下肢タイプ」(以下、「HAL® 医療用」)を導入し、記者説明会を6月20日に開催しました。

「HAL® 医療用」は筋萎縮性側索硬化症(ALS)や筋ジストロフィーなどの神経・筋疾患患者さんを対象にしたロボット治療機器です。2016年4月、ロボット治療として初めて保険が適用され、本院でも今年4月から保険適用による治療が始まりました。

本院では、患者さんの体調・状態に合わせて1回30分～1時間程度、週2～3回治療を行っています。期間は1クール9回です。

これまでに9人の患者さんに使用しましたが、1クール終了時点での評価では、歩行速度や歩行時の持久力の向上などが確認されています。患者さんからは、「姿勢が良くなった」「疲れにくくなった」などの感想をいただいています。

リハビリテーション科の木村教授は「自分で歩ける期間を長くすることで、QOL(生活の質)を向上させたい。今のところ対象患者さんが限定されているが、少しでも多くの患者さんの福音になれば」と話しています。

今後は、保険診療対象疾患以外の疾患に対する効果や下肢切断術後の歩行練習に関する臨床研究などにも「HAL® 医療用」を活用していきます。



「HAL® 医療用」を装着しての治療を実演

栄養管理部
情報

旬の魚を 食べよう



担当した管理栄養士

魚の成分は季節や成長によって変わり、うま味成分が一番多い時を一般的に旬といいます。旬によって、特に旨味が変わる食材といわれています。

春 (3月～5月)

さくら

かつお

たい

しらす など

夏 (6月～8月)

あじ

うなぎ

あゆ

いわし など

秋 (9月～11月)

さんま

さけ

かき など

たちうお

冬 (12月～2月)

たら

ぶり

かれい

ししやも など

旬の魚

1年中食べられる魚もありますが、旬の時期に食べる魚は特においしいです。また、旬の魚はよく市場に出回るため、値段も安価になりやすいです！



秋さけの南蛮漬けレシピ

栄養価 エネルギー:144kcal
たんぱく質:4.6g 食塩:2.2g



材料(1人分)

秋さけ	1切れ	揚げ油	適量
玉ねぎ	1/4個	☆酢	100cc
ピーマン	小1個	☆醤油・砂糖	各大さじ1
パプリカ	小1個	☆昆布茶	小さじ1
大葉千切り	1枚分	☆水	50cc
片栗粉	適量		

作り方

- さけの切身を3等分にし、片栗粉でしっかり衣を付ける。
- フライパンに揚げ油を入れて熱し、180℃になったら、きつね色になるまで揚げる。
- 玉ねぎは繊維にそって薄くスライスし、ピーマン、パプリカはへたを切り落とし、縦に細切りにする。
- 鍋に☆と玉ねぎ、ピーマン、パプリカを入れて火にかける。玉ねぎが軟らかくなったら火を止める。
- 南蛮ダレに揚げたさけを漬け込み、出来上がり。最後に千切り大葉を添える。

病院からのお知らせ

ボランティア活動報告

広島大学病院は、多くのボランティアの皆さんの善意にも支えられています。外来の受付案内や院内図書など6分野で40人の方が活動をしています。今号は、診療棟2階の健康情報プラザで活動するボランティアの皆さんを紹介します。

「健康情報プラザ」ってな～に？

全ての患者さんに、健康で生きがいを持ち自立した生活を送って頂くため、各種の健康に関する書籍、インターネット情報、パンフレット等を取り揃えています。くつろいだ空間で主体的に健康づくりのための情報を収集して頂く院内施設です。各種イベントの案内もしておりますのでご活用ください。

どのようにしたら利用できますか？

全ての患者さんやご家族が自由に利用することができます。(手続きは不要です) プラザ内での飲食、携帯電話の使用は禁止しております。また、大きな声の会話も禁止しておりますのでご協力ください。

どのようなボランティア活動をしていますか？

利用される皆様に安全で安心してご利用いただくため、環境整備や書籍の管理、院内のご案内と幅広い活動をさせて頂いております。活動時間も個人の都合に合わせて、自由に設定できます。

ボランティアからのお願い

私達と一緒にボランティア活動に参加してみませんか。特別な資格や年齢制限等はありません。

お問い合わせは ☎082-257-1606 ボランティア担当へ。お待ちしております。 健康情報プラザボランティア 宮本 昭江

活動日 月曜日から金曜日 9時～16時

活動場所 診療棟2階 下りエスカレーター前

活動員 3名



平成29年4月 「女性医師支援センター」を設置

近年、女性医師が増加し、その活躍が求められています。出産・育児等でキャリアを中断せざるを得ない場合があります。このため、女性医師へのキャリア継続のための支援が、病院や各医局の運営には重要な課題となっています。

「広島大学病院女性医師支援センター」は、女性医師にとって働き甲斐のある病院となるよう、働きやすく効率のよい職場環境の整備を支援し、働き続けられる職場、離職しても復帰しやすい職場を構築することを目指しています。本院は、厚生労働省の「平成29年度女性医師キャリア支援モデル普及推進事業」に応募し採択され、職場復帰をめざす女性医師を対象としたオーダーメイドのキャリア支援制度の構築などを実施しています。本年7月からは、妊娠中の医師を対象として、マタニティ白衣のレンタルを開始しました。本院の女性医師だけでなく、県内の病院に勤務する方であれば利用できることとしており、支援センターのホームページ(<https://www.hiroshima-u.ac.jp/iryo/isisien>)からも案内しています。

今後、支援を必要としている方々の要望に応え、女性医師がキャリアを継続し活躍できるよう取り組んでまいります。

催しのご案内

(2017年10月～12月)

がん治療を支える

患者サロン

会場：臨床管理棟3階 3F2会議室

放射線治療の基礎と最近の話題

10月18日(水) 13:30～14:30 講師：放射線治療科医師 西淵 いくの

食道がんの基礎と治療

11月16日(木) 13:30～14:30 講師：消化器外科医師 浜井 洋一

膵臓がんの基礎と治療

12月21日(木) 13:30～14:30 講師：消化器・代謝内科医師 芹川 正浩

患者・家族が同じ目線で

がん患者おしゃべり会

10月24日(火) 13:30～14:30

11月28日(火) 13:30～14:30

12月26日(火) 13:30～14:30

場所：診療棟2階 健康情報プラザ

いずれも問い合わせは：
がん相談支援センター ☎082-257-1525